

入札監視委員会の議事概要の公表について

北九州市入札監視委員会の平成23年度第4回定例会議を次のとおり開催したので、別添のとおりその議事概要を公表する。

記

開催日時 平成24年2月16日(木) 14:00～16:00

会 場 北九州市庁舎 15階 特別会議室B

平成23年度 第4回 北九州市入札監視委員会 議事概要

1 会議名

平成23年度 第4回 北九州市入札監視委員会

2 開催日時・会場

開催日時 平成24年2月16日(木) 14:00～16:00

会場 北九州市庁舎 15階 特別会議室B

3 出席委員

阿野 寛之、柿内 よし子、菊池 裕子、高橋 衛、藤田 賢一郎

4 議事

(1) 平成23年度第3四半期の工事契約状況等の報告

次の事項について報告した。

- ・工事契約件数及び契約金額について
- ・建設工事等有資格業者に係る指名停止及び資格取消について

(問) 工事成績不良で指名停止になる業者があるが、その場合工事の手直しを行うのか。

(答) 工事の検査自体は合格しているので、手直しは行わない。

(2) 平成23年度第3四半期の工事契約抽出案件の審議

ア 抽出方法について

審議する案件は、平成23年度第3四半期に契約をした工事の中から、菊池委員が10件(契約室契約分8件、建設局西部整備事務所契約分2件)を抽出した。

イ 審議における質疑等

(問) JRの線路付近の工事の場合、「(社)鉄道電業研究会が認定した作業責任者を監理技術者又は主任技術者として専任で配置することができる」と公告しているがどうしてなのか。

(答) JR側としては安全運行を行うことが義務なので、軌道に影響がでないよう作業責任者を置くこととした。

(問) いずれも交差点改良工事(土木)の一般競争入札であるが、入札参加業者数に違いがでたのは、対象がA及びBランクの案件とAランクだけの案件だからなのか。

(答) そのとおりと思われる。

(問) 電気工事で落札率が50.05%と著しく低いのはなぜか。

(答) 今回は、工事に係る設備費が98%と高かったため、最低制限価格を設けなかった。また電気計装製造メーカーを中心に業者選定を行っており、自社製品の在庫状態やシェアなどの条件により価格が決まったものと思われる。このような傾向は、エレベーターやエスカレーター設置工事でも見られる。

- (問) 設置した製品に対し保証はあるのか。またある場合どの様に業者に知らせているのか。
- (答) 瑕疵担保期間を定めており、電気については原則1年間である。また、入札参加業者には瑕疵担保期間について通知している。
- (問) 以前もあったが、入札参加業者のほとんどが最低制限価格を下回り、予定価格に近い高い金額で入札した業者が落札している案件がある。制度上仕方がないが、検討する必要があるのではないか。
- (答) 最低制限価格は、工事の品質の担保及びダンピング入札の排除として導入している。現在最低制限価格を決定するのに「ランダム係数」を導入しているが、導入からまだ日が浅いので、定着状況を見てみたい。また、昨年12月からこの「ランダム係数」を入札後公表しているため、今後業者の積算能力も上がってくると思われる。
- (問) 契約を辞退した場合どうなるのか。
- (答) 北九州市の場合、入札参加資格の取消しとなる。
- (問) 落札業者が契約を辞退した場合、2位の業者と契約することは出来ないのか。
- (答) 契約は可能だが、契約を辞退した業者の落札金額以内で契約しなければならない。
- (問) 以前から、造園工事の落札率は他の工種より高いので、もう少し下がった方がよいではないか。
- (答) 平均落札率は、平成17年度から毎年下がっており、現在90%で推移している。また、A・Bランク対象工事の案件は、最低制限価格近くで落札されており、Aランクだけの案件より落札率が下がっている。しかし、他の工種比べ高いのは事実である。これは、Aランクの造園業者数が少なく、過去の落札率が推察できているのではないかとと思われる。

次回委員会の開催は、現委員の任期後の開催となるため、工事の抽出委員も含め、新委員と協議することになった。